

## 第7回 千里浜再生プロジェクト委員会 会議概要

1. 日時：平成28年2月22日（月）14：00～16：00

2. 場所：石川県地場産業振興センター本館2F 第2研修室

### 3. 議事

#### 1) 議事公開の可否について

・委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

#### 2) 千里浜再生プロジェクト委員会 検討資料説明（資料 - 3）

①これまでの経緯

②海上投入の効果検証

③砂流出防止工（サンドパック）の効果検証

④人工リーフの効果検証

⑤海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）

⑥今後の予定

・事務局から①～⑥について説明が行われた。

(質疑)

・各委員からの主な質疑・意見内容について、次ページ以降に示す。

## 第7回 千里浜再生プロジェクト委員会（平成28年2月22日開催） 議事概要

### 各委員からの主な質疑・意見

#### 1 海上投入の効果検証（資料P5～12）

・9分割した表の上手側（北側）が全てマイナスに近いが、これは投入したからマイナスになっているのか、それとも元々マイナス傾向にあったのか。

→（事務局）測量範囲において投入前後を比較すると、投入した砂は沖へ拡散することなく、岸の南側のほうに流れている傾向にある。そのため、元々ある砂も同じような傾向にあると考えられる。

・（委員長）平成25年は2.5万 $\text{m}^3$ 投入したが、その時も似た結果があったか。

→（事務局）平成25年も、岸側のほうに来ていることは確認している。

・3.7万 $\text{m}^3$ 投入し、2.7万 $\text{m}^3$ 堆積しているが、あと1万 $\text{m}^3$ はこの範囲外にいったのか、それとも誤差の範囲なのか。

→（事務局）測量範囲外に流れていった可能性が大きいと考えている。

（委員長）この測量範囲より南側について読み取っていただくと、全体像が分かり易くなると思う。

・もし土砂を投入しなかったらマイナスであったかもしれず、それを基準にプラス2.7万 $\text{m}^3$ ぐらいまでもっていつているとも考えられる。

・平成24年と25年に実施した4万 $\text{m}^3$ はどうなったのか。

→（事務局）平成24年と25年も、前面のバーに取り込まれていることを確認している。

#### 2 砂流出防止工（サンドパック）の効果検証（資料P13～17）

・天端高がT.P.+0.5mのサンドパックは砂浜の回復が遅いとなっているが、定性的にそう見えるということか。

→（事務局）定量的な評価は出来ていない段階であり、写真や現地の状況から定性的に得た結論である。

・（委員長）固定カメラによる観測結果から、汀線のどのような保護効果が見られたか。

→（事務局）高波浪後の9月28日に汀線の状況を見ると、0.1mのサンドパックに比べて0.5mのサンドパックの方の汀線が保護されている。

・（委員長）0.5mのサンドパックの背面は、だいぶ深く掘れている可能性があり、それを埋

めるだけの砂が戻ってこないと考えられる。鉛直方向の情報があれば定量的にわかるかもしれない。

### 3 人工リーフの効果検証（資料P18～23）

・10mで十分効果があるだろうと判断されているのか。

→（事務局）はい。資料の21ページのとおり、人工リーフの背面では少し砂浜の幅が広がっていることを確認している。

・（委員長）羽咋地区の人工リーフは来年度も約50m延伸する工事を計画しているというとか。

→（事務局）はい。

・浜幅としてはどのくらいを維持しようということになっていたか。

→（事務局）以前の委員会では、サンドバックを設置する議論の中で、走行帯や駐車帯の幅を考慮して35mとした。

・人工リーフの効果は、どのあたりまでをもって良かったと考えるのか。それから、もし悪かったならば人工リーフをどうするのか。

→（事務局）羽咋地区の人工リーフは着手したばかりのため、そこまでは考えていない。引き続き、この委員会の中で検討していきたい。

### 4 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）（資料P24～27）

・来年度は千里浜ウォークをしないのか。

→（事務局）来年度も実施する。

・福井県の例では、海岸のゴミは山から川を下ってくるものが意外と多かった。山と海のつながりという観点から、教育上非常に重要かと思うので、ぜひゴミがどこから来たのか調査していただければ有意義だと考える。

→（委員長）日本海沿岸は、海外からの漂着物が多いという話も聞いたことがある。

（事務局）加越沿岸全体では、従前は例えば韓国製等のものが確かに多かったが、今年千里浜では、昆布や流木等が一番多く、人工的なものは少なかった。

（委員長）なぎさ出前講座等の中で、このゴミの情報を地元の特に小中学生に知ってもらうことも有意義だ。

（事務局）来年度の千里浜ウォークの中で、漂着したゴミがどういうものかを見ていきたい。

## 5 今後の予定（資料P28～29）

- ・これまでの海上投入は、侵食を緩和するぐらいの効果かもしれない。投入量を増やさないのか。

→（事務局）今年は多く観測するため、短期間で投入できる量の2万m<sup>3</sup>と考えている。

- ・（委員長）金沢港の浚渫土砂の状態や浚渫船の運航状況など、制約条件はどんな状況か。

→（事務局）魚への影響を踏まえ8月中旬から10月までの投入時期の制約や予算的な制約などがある。

- ・羽咋地区人工リーフの下手側に悪影響があった場合、海上投入地点を羽咋地区人工リーフよりも南側にすることは、地元との調整等から難しいのか。

→（事務局）地元の方には現在の海上投入の場所で話をしており、他の場所では話をしていないため分からない。

- ・定量的な観測として、サンドパックの後ろ側と海浜との間で2、3点水位を測っていただきたい。

→（事務局）定量的な測量に努めたい。

- ・（委員長）ドライブウェイの監視体制等の中で観測することはできないか。

→（事務局）ドライブウェイの通行規制のため、事務所でパトロールをやっている。その中で連絡体制を密にし、写真を撮るなどの対応に努めていきたい。

- ・海上投入については、従前どおり実施計画や時期等を該当する漁業者にご説明願いたい。

→（委員長）投入地点が変わるという場合には、当然関係者の了解を得ることになる。

（事務局）引き続き皆さんのご理解得られるように説明会等を開催していく。